

国学院大学経済学部「演習ⅢB」卒業論文(担当教員 小木曾 道夫)

# 金銭面からみるプレミアリーグ

経済学部経済学科 脇元 大知

## 研究内容

プレミアリーグを構成する3つのお金、プレミアリーグ所属選手と他リーグ所属選手の年俸の比較、プレミアリーグのどこにそれだけの魅力があるのかについて研究したので説明していきたいと思う。

## 目次

|        |                                |    |
|--------|--------------------------------|----|
| 第1章    | プレミアリーグの概況.....                | 2  |
| 第1章第1節 | プレミアリーグの歴史.....                | 2  |
| 第1章第2節 | プレミアリーグの概況.....                | 2  |
| 第2章    | プレミアリーグを構成する3つのお金.....         | 5  |
| 第2章第1節 | 放映権収入.....                     | 5  |
| 第2章第2節 | 広告収入.....                      | 6  |
| 第2章第3節 | 入場料収入.....                     | 7  |
| 第2章第4節 | プレミアリーグがお金持ちになった理由.....        | 9  |
| 第3章    | プレミアリーグ所属選手と他リーグ所属選手の年俸比較..... | 10 |
| 第3章第1節 | イングランドサッカーチーム所属選手の年俸.....      | 10 |
| 第3章第2節 | 高い年俸と移籍市場.....                 | 11 |
| 第3章第3節 | レフェリーの給料について.....              | 12 |
| 第4章    | プレミアリーグのどこにそれだけの魅力があるのか.....   | 13 |
| 第4章第1節 | プレミアリーグを体現する熱狂的なファンの存在.....    | 13 |
| 第4章第2節 | ホームアドバンテージ.....                | 13 |

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 第4章第3節 サッカー界を盛り上げるプレミアリーグの高騰移籍市場..... | 14 |
| 第5章結論.....                            | 15 |
| 参考文献.....                             | 15 |

## 第1章 プレミアリーグの概況

まずは、プレミアリーグの簡単な概況について説明していく。プレミアリーグとは、詳しくは後述するが、イングランドのアソシエーション・フットボールリーグの1部リーグのことである。

### 第1章第1節 プレミアリーグの歴史

本節では、Weblio 辞書(プレミアリーグ)に基づいて、プレミアリーグの歴史を紹介する。世界最古となる1888年、全12チームによってイングランドのフットボールリーグは始まりを告げる。約90年たった1980年代前半、スタジアムの老朽化、フリーガンという観戦中のサポーターの暴動、試合進行への妨害の頻発からイングランドのサッカーは他のヨーロッパの国と比べて大きく後れを取っていた。1985年今でも語り継がれる有名なフリーガンによる事件が起きてしまう。これがヘイゼルの悲劇だ。ヘイゼルの悲劇とは、UEFAチャンピオンズカップ(現;チャンピオンズリーグ)の決勝においてサポーターが暴徒化したことがきっかけで39人の死者がでてしまった大事件のことである。これによりイングランドのクラブは、5年間ヨーロッパの大会への参加資格を禁じられ、ヘイゼルの悲劇の当事者であるリヴァプールには7年間の参加禁止が言い渡された。募りに募った不満から当時、影響力を持っていた5クラブがフットボールリーグからの脱退を発表する。これに続く形で全チームがリーグからの離脱を発表した。ここで1992年、正式名称をThe Football Association Premier League Limitedとするプレミアリーグが設立される。なので、イングランドのフットボールリーグの歴史は1888年だが、今回取り扱うプレミアリーグが開幕したのは1992年であるということをご理解していただきたい。

### 第1章第2節 プレミアリーグの概況



本節では、Weblio 辞書(プレミアリーグ)に基づいて、プレミアリーグの概況を紹介する。プレミアリーグは、全20チームで構成されておりホームアンドアウェー方式によって1シーズンに38試合が行われる。勝利3、引き分け1、敗北0に基づいて勝ち点が積み重ねられていき38試合終了時点で最も勝ち点を稼いだクラブの優勝となる。1位から4位のクラブには、来シーズンのUEFAチャンピオンズリーグの出場権、5位のクラブにはUEFAヨーロッパリーグの出場権が与えられる。また18位から20位のクラブは、2部に当たるEFLチャン

ピオンシップへ降格となる。EFL チャンピオンシップからは1位2位のクラブ、そして3~6位の4クラブによって行われるトーナメント方式を勝ち抜いた1クラブの合計3チームが来シーズンのプレミアリーグを戦う権利を得られる。つまり、6位になったクラブにもプレミアリーグで戦うチャンスが巡ってくる可能性があるため、1つでも上の順位でシーズンを終えるため死にもの狂いで1試合1試合を戦うわけである。2023/24シーズンでプレミアリーグに所属しているチームは表1の通りになる。

表1 2023/24シーズンにおけるプレミアリーグの所属チーム

| チーム                                                                                                   | 創設年  | 監督                                                                                              | ホームタウン          | スタジアム         | 収容人数(人) | 前年度成績 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|---------------|---------|-------|
|  ニューカッスル・ユナイテッド      | 1893 |  エディ・ハウ        | ニューカッスル・アポン・タイン | セント・ジェームズ・パーク | 52,387  | 4位    |
|  マンチェスター・シティ         | 1880 |  ジョゼップ・グアルディオラ | マンチェスター         | エティハド・スタジアム   | 55,097  | 1位    |
|  マンチェスター・ユナイテッド    | 1878 |  エリック・テン・ハフ  |                 | オールド・トラフォード   | 76,100  | 3位    |
|  エヴァートン            | 1878 |  ショーン・ダイチ    | リヴァプール          | グディソン・パーク     | 40,569  | 17位   |
|  リヴァプール            | 1892 |  ユルゲン・クロップ   |                 | アンフィールド       | 54,074  | 5位    |
|  バーンリー             | 1882 |  ヴァンサン・コンパニ  | バーンリー           | ターフ・ムーア       | 21,944  | ※(優勝) |
|  ウルヴァーハンプトン・ワンダラーズ | 1877 |  フレン・ロペテギ    | ウルヴァーハンプトン      | モリニュー・スタジアム   | 31,700  | 13位   |
|  アストン・ヴィラ          | 1874 |  ウナイ・エメリ     | バーミンガム          | ヴィラ・パーク       | 42,785  | 7位    |
|  シェフ・ウェド           | 1889 |              | シェフィールド         | ブラモール・レーン     | 32,125  | ※(2位) |

|                |      |                |              |                       |         |       |
|----------------|------|----------------|--------------|-----------------------|---------|-------|
| シェフィールド・ユナイテッド |      | ポール・ヘッキンボトム    |              |                       |         |       |
| アーセナル          | 1886 | ミケル・アルテタ       |              | エミレーツ・スタジアム           | 60,432人 | 2位    |
| チェルシー          | 1905 | マウリシオ・ポチエツティーノ |              | スタンフォード・ブリッジ          | 41,623  | 12位   |
| クリスタル・パレス      | 1905 | ロイ・ホジソン        |              | セルハースト・パーク            | 26,309  | 11位   |
| トッテナム・ホットスパー   | 1882 | アンジェ・ポステコグルー   | ロンドン         | トッテナム・ホットスパースタジアム     | 62,850  | 8位    |
| ブレントフォード       | 1889 | トーマス・フランク      |              | ブレントフォード・コミュニティ・スタジアム | 17,250  | 9位    |
| ウェストハム・ユナイテッド  | 1895 | デイヴィッド・モイーズ    |              | ロンドン・スタジアム            | 60,010  | 14位   |
| フラム            | 1879 | マルコ・シウバ        |              | クレイヴン・コテージ            | 25,700  | 10位   |
| ブライトン&ホヴ・アルビオン | 1901 | ロベルト・デ・ゼルビ     | ブライトン・アンド・ホヴ | アメックス・スタジアム           | 30,750  | 6位    |
| ルートン・タウン       | 1885 | ロブ・エドワーズ       | ルートン         | ケニルワース・ロード            | 10,356  | ※(3位) |
| ボーンマス          | 1890 | アンドニ・イラオラ      | ボーンマス        | バイタリテイ・スタジアム          | 11,364  | 15位   |

|                                                                                   |               |      |                                                                                   |            |         |           |        |     |
|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------|---------|-----------|--------|-----|
|  | ノッティンガム・フォレスト | 1865 |  | スティーヴ・クーパー | ノッティンガム | シティ・グラウンド | 30,576 | 16位 |
|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------|---------|-----------|--------|-----|

※EFL チャンピオンシップでの成績

出典：Weblio 辞書(プレミアリーグ)をもとに筆者作成

つまり、チーム名(ホームタウン)は、ニューカッスル・ユナイテッド(ニューカッスル・アポン・タイン)、マンチェスター・シティ(マンチェスター)、マンチェスター・ユナイテッド(マンチェスター)、エヴァートン(リヴァプール)、リヴァプール(リヴァプール)、バーンリー(バーンリー)、ウルヴァーハンプトン・ワンダラーズ(ウルヴァーハンプトン)、アストン・ヴィラ(バーミンガム)、シェフィールド・ユナイテッド(シェフィールド)、アーセナル(ロンドン)、チェルシー(ロンドン)、クリスタル・パレス(ロンドン)、トッテナム・ホットスパー(ロンドン)、ブレントフォード(ロンドン)、ウェストハム・ユナイテッド(ロンドン)、フラム(ロンドン)、ブライトン&ホヴ・アルビオン(ブライトン・アンド・ホヴ)、ルートン・タウン(ルートン)、ボーンマス(ボーンマス)、ノッティンガム・フォレスト(ノッティンガム)の20チームである。2023/24シーズン時点で、プレミアリーグに所属するクラブは、全てイングランドに本拠地を置くが、過去にスウォンジー、カーディフといったウェールズに本拠地を置くチームも参加していた。また、今後とも2チームはEFL チャンピオンシップから昇格を果たせばプレミアリーグに昇格することになる。

## 第2章 プレミアリーグを構成する3つのお金

### 第2章第1節 放映権収入

プレミアリーグの収益は、主に放映権収入、広告収入、入場料収入の3つから形成されている。

ここでは、岡部(2015)をもとにプレミアリーグとブンデスリーガの放映権料の比較について説明していく。なお、プレミアリーグとは、前述したように、イングランドの20のサッカークラブが参加する最上位リーグの名称であり、ブンデスリーガとは、ドイツのサッカー1部リーグの名称である。2016~2019年の3年間で得た放映権料を1シーズンごとに換算するとプレミアリーグは、約23億ユーロ(3100億円)でブンデスリーガは、約8億3000万ユーロ(1100億円)になった。ここから約3倍もの差があることがわかる。

続いてそれぞれのリーグに所属しているチームが得た放映権料を比較していく。2013/14シーズンプレミアリーグの最下位であるカーディフは、約7630万ユーロ(105億円)を獲得した。それに対して、2014/15シーズンブンデスリーガで優勝したバイエルン・ミュンヘンが獲得した放映権料は、約3724万ユーロ(50億円)だった。基本的には、リー

グで上位になったチームから順に多くの放映権料を獲得する。プレミアリーグで最下位であるカーディフが優勝したバイエルン・ミュンヘンの約2倍もの放映権料をもらっているという状況からプレミアリーグがどれだけ多くのお金を持っていてどれだけ多くのお金を動かしているのかという事実が理解できる。では、なぜこれほどの差が出るまでプレミアリーグはお金持ちになったのか岡部(2015)をもとに次節で説明していく。

## 第2章第2節 広告収入

全世界の人が注目するプレミアリーグにおいて、選手が袖を通すユニフォームに企業の名前を載せることは、絶好の宣伝効果になる。その中でも一段と目立つところに名前の刻まれている胸サポンス、契約金は億単位にのぼることもあり企業側からしたらぜひともその名を世界に知れ渡らせたいと思っているはずである。そんな大きなお金を動かしているプレミアリーグの胸サポンスについて契約内容をお金の観点から調べていく。

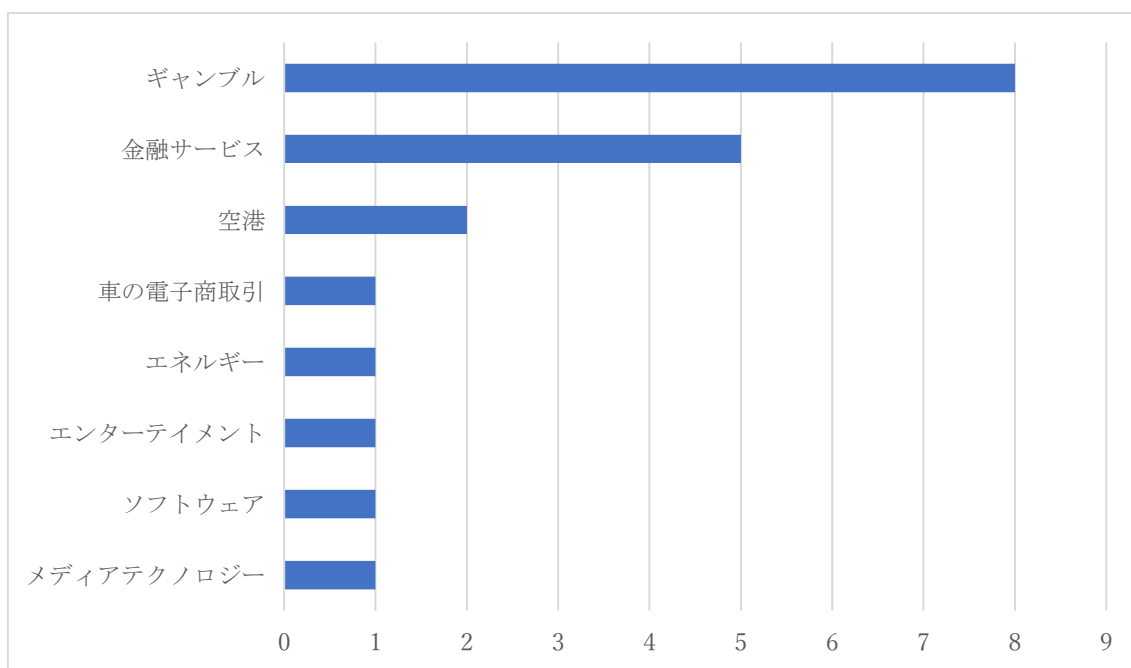


図1 2023/24 プレミアリーグ所属チーム 胸サポンス 産業

出典: Score and Change (2023) をもとに筆者作成

図1を見てもらうと現在プレミアリーグに所属する20チームの内全体の40%に当たる8つのチームがギャンブル系の企業とスポンサー契約を交わしていることがわかる。ギャンブル企業以外のスポンサーの各産業を見てもらうと散らばっていることからいかに、ギャンブル企業の数が多いのかが見て取れる。

しかし、Score and Change (2023)によると、プレミアリーグは今年4月、2025/26 シー

ズンをもってギャンブル関連企業との契約を結ぶことを禁止するという規則を発表した。老若男女問わず様々な人が日々声援を送っているプレミアリーグにおいて、胸サポンスーという誰でも目にとまる場所にギャンブル業界の名前が掲載されているのは、たしかに適切とは言えないかもしれない。ただ1社につき750万ポンドの契約金がもらえと言われるギャンブル企業に手を伸ばすクラブがいるのは経営を成り立たせるためにおかしなことではない。ただ、この規制後もユニフォームの袖部分のスポンサーや各クラブのスタジアムにある看板等で名前を載せることが許されているため、胸サポンスーだけが禁止になることに統一感があるかどうかは疑問が残る。

何はともあれ3年以内に8つのクラブが現在の胸スポンサーとの契約を解除し新たなスポンサーを見つける必要がある。多額のお金が取引されるスポンサー契約は、クラブの今後を左右するかもしれない。上手にお金を蓄えられたクラブは、そのお金を選手の移籍やスタジアムの拡張など更にお金を増やすための先行投資として利用できる。直接試合の結果に関わるわけではないのであまり注目はされていないかもしれないが、各クラブがスポンサー契約においてどのような決断を下すのかが今後のプレミアリーグをさらに面白くすることになるだろう。

## 第2章第3節 入場料収入

プレミアリーグの歓声は、声援なら選手の活力に、ブーイングなら選手の精神的ダメージにと与える効果はとても大きい。その歓声を作り出すのが観客の存在である。各クラブは、チームの勝利のため、財政の確保のためとスタジアムを満員にするために日々努力を行っている。そんな入場料収入の中でも多額のお金をクラブに収めてくれるシーズンチケットホルダーがいる。シーズンチケットとは、1シーズンほぼ全てのホームゲームのチケットを観戦できるチケットのことである。1つの商品を1回1回分けて買うよりも1度にまとめ買った方が安く手に入ることがあるが、それと同じ理論である。ここでは、プレミアリーグに所属するチームのシーズンチケットがいくらなのか、また、前シーズンと比較した価格の推移について説明しそれに対する考察を述べていく。

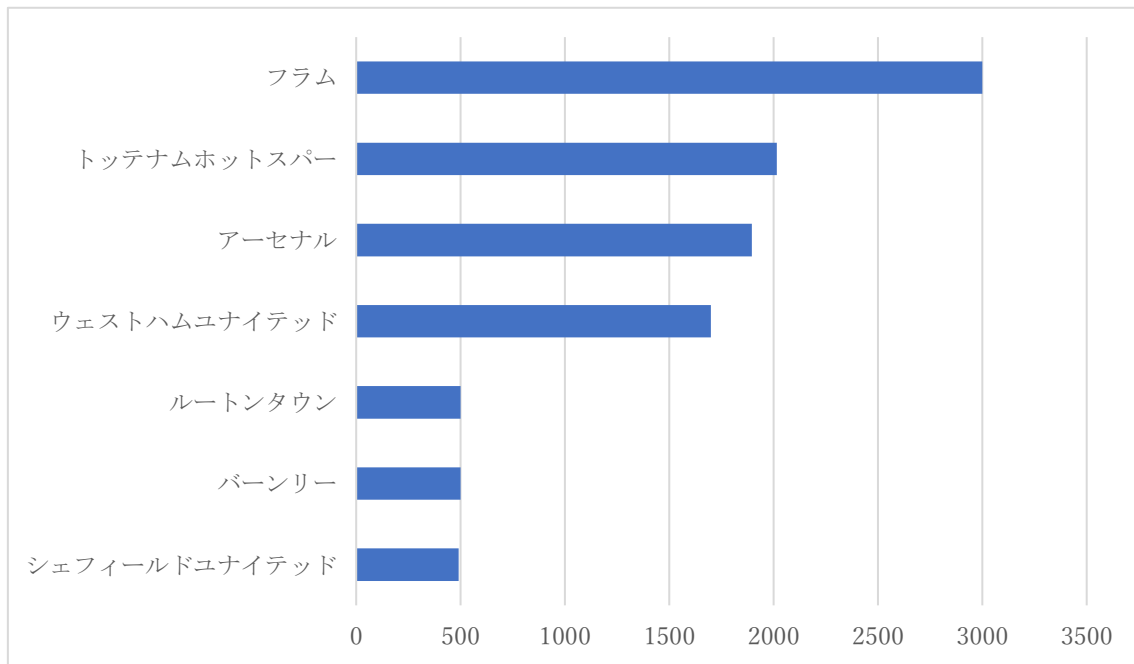


図2 2023/24 シーズンプレミアリーグに所属するチームの最も高額なシーズンチケット

出典：statista(2023) をもとに筆者作成

この図2は、2023/24年プレミアリーグシーズンチケットにおいて、全20チームの中から金額が高かった4チームと低かった3チームをまとめたものである。表2を見てもらうとシェフィールドユナイテッドが491ポンドで最も安くその後500ポンドでルートンタウン、バーンリーが続く。一方で現在フラムが3000ポンドと最も高価なシーズンチケットを販売している。下位3チームと比べておよそ6倍も金額が違っているのである。フラムより少し値段は落ちるが、2015ポンドでトッテナムホットスパー、1896ポンドでアーセナルが2番目と3番目に位置づけている。

上位4チームと下位3チームの違いとしてスタジアムの立地の良し悪しに関係しているのではないかと考える。上位4チーム全てのチームに共通して言えることが、イギリスの首都であるロンドンに本拠地を置くチームであるということだ。下位3チームはというと、それぞれロンドン以外の場所に本拠地のスタジアムがある。人口が多く人が集まりやすい首都に本拠地を置くチームは、集客が見込めるためシーズンチケットの値段を高く見積もっても購入されると踏んだのではないかと推測する。



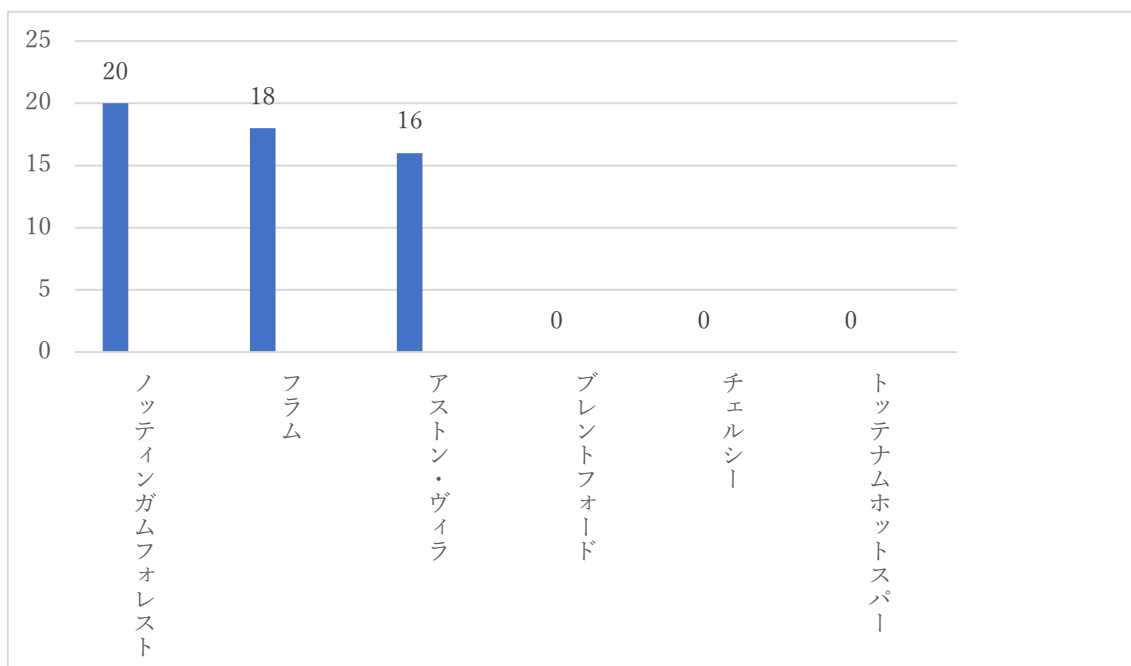


図3 シーズンチケット 昨シーズンとの比較

出典 ; ALLATARSCLUB(2023) をもとに筆者作成

図3は、2023/24プレミアリーグのシーズンチケットが去年と比べてどのくらい値上がりしたのかをグラフにしたものである。値上がりが激しかった上位3チームと値上がりが少なかった(去年と変わらなかった)下位3チームをまとめたものである。ノッティンガムフォレスト、フラム、アストン・ヴィラの3チームが、去年と比べて15%以上値上がりを見せているのに対してブレントフォード、チェルシー、トッテナムホットスパーの3チームは去年と同じ価格でシーズンチケットを販売している。図2の通りトッテナムホットスパーは、元々のチケット価格が高いため値上がりしなかったかもしれない。

一方でチェルシーはなぜ値段を変えなかったのだろうか。これには2022/23シーズンの成績が大きく関係していると推測する。2022/23シーズンのチェルシーの結果は、12位であった(表1)。ヨーロッパのコンペティションが与えられるのは上位7チームまでなのでそれを大幅に下回る結果になった。昨シーズンの成績が上位でありヨーロッパのコンペティションに参加していたら、今シーズンのシーズンチケットの価格はもう少し高騰していたのかもしれない。

これらを踏まえると1つでも上の順位でシーズンを終えることがどれだけチームの財政を支えることに繋がるのかがわかる。

## 第2章第4節 プレミアリーグがお金持ちになった理由

岡部(2015)によるとプレミアリーグがお金持ちになった経緯について大きく分けて3つ

理由がある。

その1つ目は、有料テレビ市場の成熟度だ。イギリスはフットボール発祥の地ということもあって国民にサッカーを好きという人が非常に多く、イギリス国内のBスカイBスポーツパッケージというスポーツを放送するチャンネルの契約者数は1000万人を超えている。人口が約6722万人なのでだいたい6、7人に1人が登録しているという計算になる。この数字は、ヨーロッパでは断トツだ。また、プレミアリーグの国外放映権料総額は年間で約11億5000万ドル(1420億)になるが、これはブンデスリーガの国外放映権料総額と比べても圧倒的な数字になる。

2つ目の理由は、旧植民地を利用したテレビ放送だ。イギリスは、シンガポール、南アフリカ、香港など様々な場所に旧植民地がある。それを利用して見やすい時間に試合を開催することで時差によって試合を見るできないという状況を最大限に抑えることができる。こうした取り組みから旧植民地であった地域のサッカー観戦者のほとんどは他国のリーグの試合よりもプレミアリーグの試合を見ることを好んでいる。

3つ目の理由は、セカンドスクリーンの導入だ。セカンドスクリーンというのはテレビと同時並行で手元にスマートフォンやタブレットを持って第2の画面として試合を見ることである。そうすることでテレビとは別の角度の映像を見ることができる。他の機能として映像を通して選手の個人データを見ることができ、より掘り下げながらサッカー観戦を楽しむことができる。

こうして、現状に満足することなく新しい取り組みにいち早く取り組み続けた結果、今のプレミアリーグはお金持ちになることができたのである。

### 第3章 プレミアリーグ所属選手と他リーグ所属選手の年俸比較

#### 第3章第1節 イングランドサッカーチーム所属選手の年俸

FootyStats(プレミア)によるとプレミアリーグの所属選手の平均年俸は€4,223,676、FootyStats(EFC)によるとイングランドの2部リーグであるフットボールリーグ・チャンピオンシップの所属選手の平均年俸は€768,002、FootyStats(ブンデス)によるとドイツの1部リーグであるブンデスリーガの所属選手の平均年俸は€2,208,128である。つまり、平均年俸を比べると、プレミアリーグの選手はブンデスリーガの選手の約2倍年俸を貰っている。また、イングランドの2部リーグであるレスターシティFCの平均年俸は247万9822ユーロ(表4)と、ブンデスリーガの下位チームであるVfLボーフムの平均年俸である61万2500ユーロよりも高い。

表2 プレミアリーグチーム別年俸総額

|                  | 平均年俸            | 年俸総計                | 選手 |
|------------------|-----------------|---------------------|----|
| マンチェスターシティ FC    | 1096 万 5673 ユーロ | 2 億 6317 万 6160 ユーロ | 24 |
| マンチェスターユナイテッド FC | 937 万 9760 ユーロ  | 2 億 4387 万 3760 ユーロ | 26 |
| アーセナル FC         | 834 万 3462 ユーロ  | 2 億 858 万 6560 ユーロ  | 25 |
| バーンリー FC         | 149 万 1244 ユーロ  | 4026 万 3600 ユーロ     | 27 |
| ルートンタウン FC       | 113 万 7283 ユーロ  | 2729 万 4800 ユーロ     | 24 |
| シェフィールドユナイテッド FC | 109 万 7070 ユーロ  | 2632 万 9680 ユーロ     | 24 |

出典 ; FootyStats(プレミア) をもとに筆者作成

表3 ブンデスリーガチーム別年俸総額

|                    | 平均年俸           | 年俸総計          | 選手 |
|--------------------|----------------|---------------|----|
| FC バイエレンミュンヘン      | 1231 万 476 ユーロ | 2 億 5852 万ユーロ | 21 |
| ボルシアドルトムント         | 576 万 4783 ユーロ | 1 億 3259 万ユーロ | 23 |
| RB ライプツィヒ          | 474 万 9167 ユーロ | 1 億 1398 万ユーロ | 24 |
| VfL ボーフム           | 61 万 2500 ユーロ  | 1470 万ユーロ     | 24 |
| SV ダルムシュタット 98     | 46 万 8214 ユーロ  | 1311 万ユーロ     | 28 |
| 1. FC ハイデンハイム 1846 | 44 万 4091 ユーロ  | 977 万ユーロ      | 22 |

出典 ; FootyStats(ブンデス) をもとに筆者作成

表4 チャンピオンシップチーム別年俸総額

|              | 平均年俸           | 年俸総計            | 選手 |
|--------------|----------------|-----------------|----|
| レスターシティ FC   | 247 万 9822 ユーロ | 6695 万 5200 ユーロ | 27 |
| サウサンプトン FC   | 205 万 4814 ユーロ | 4726 万 720 ユーロ  | 23 |
| リーズユナイテッド FC | 143 万 7696 ユーロ | 4025 万 5480 ユーロ | 28 |

出典 ; FootyStats(EFC) をもとに筆者作成

前節に書いた放映権の話からも分かる通り入ってくる収入が大きいと当然それだけ多くの支出にあてられるのでイングランドのサッカーチームに所属している選手の年俸が高くなるのはある意味当然と言えるかもしれない。

### 第3章第2節 高い年俸と移籍市場

近年、プレミアリーグには様々な有力選手が移籍してきてサッカー界隈を盛り上げているが個人的に一つ疑問に思う考えがある。それは、他国の上位チームでプレーしている選手がプレミアリーグの中位、下位のチームに移籍してくるという点だ。なぜ、このようなことが起きているのか主な要因が年俸の高さだと考えた。豊富な資金力から有力な選手を獲得する、その選手は多少チームと個人の実力差のギャップに悩むが高い年俸を貰えるため許容する、そうすることでチームは強くなりまた資金が入る。この循環が生まれるわけだ。この循環の良いところは、並大抵のことが起きない限り崩れるビジョンが見えないと

ころだ。最近のサッカー市場では大会の賞金、放映権と動かす資金も大きくなっていることからこの連鎖が続く限り当分の間プレミアリーグが他のリーグよりも経営の面で先頭に立つことと思われる。逆に悪いところは、取ってきた選手が移籍金に見合う活躍が出来なかった場合、急なトラブルで莫大な負債を抱えた場合、取り返しがつかないハイリスクハイリターンの関係であるという点である。

成功、失敗問わず今後の移籍市場を盛り上げていくのは高い資金力を持ったプレミアリーグに間違いないので十分注目していきたいところである。

### 第3章第3節 レフェリーの給料について

プレミアリーグの試合を陰で支え時にそのジャッジから試合の注目を浴びるレフェリーについて、給料を調べたので書いていく。まず、現代のサッカーには、公式レフェリー、アシスタントレフェリー、ビデオアシスタントレフェリーの3種類が存在する。今回は所謂、主審と呼ばれる公式レフェリーの給料について注目した。参考文献に載せたSPORTINGFREEの記事を元に2021/22シーズンのプレミアリーグでジャッジを務めたレフェリーを対象に説明していく。

1 人目は、マイク・ディーン氏である。歴代最多となる553試合のジャッジを担当した彼の給料は20万ポンド。長年第一線で活躍したレフェリーなだけあってこの数字は(この後説明するマイケル・オリバー氏、他1名と並んで)全体の中でも最高額である。なお現在は、レフェリーの仕事を引退しており、引退する年の最後の1年間は上記に記してあるビデオアシスタントレフェリーを務めていた。

2 人目は、マイケル・オリバー氏である。リーグ最年少主審記録を保持していて、若くから多くの経験を積んでいる彼の給料は20万ポンドである。彼よりも年齢と試合数が多いが給料の低い審判は他にもいるため、プレミアリーグの審判の給料が単なる年功序列ではなく成果主義制度なのが見える。

3 人目は、スチュワート・アトウェル氏である。マイケル・オリバー氏に更新されるまでリーグ最年少主審記録を保持していた彼の給料は、上記の2人より低い7万ポンドである。現在も活躍しており、マイク・ディーン氏の引退によりこれからますます試合数をこなすことが予想されるためこの給料は上がることになるだろう。

4 人目は、クレイグ・ポーション氏である。彼の給料は、4万8千ポンドであり表の中で最も低い数字となっている。試合数、年齢共にスチュワート・アトウェル氏より多いため給料に違いが見られることは不思議である。選手と違い、ゴールやアシストといった明確な数字に表れないためレフェリーの給料基準を定めるのは大変難しいことである。

4人のレフェリーに注目し給料を調べてみると、全体的に給料が低いのではないかと感じた。レフェリーという仕事は常にその判断に正解が求められ、判断ミスをしようものなら各クラブ、サポーターから非難を浴びる。人間であるためだれしもミスは犯すし、その

ミスを0に近づけるために最近ではビデオアシスタントレフェリーも導入されている。2020/21シーズンには、2戦連続で誤審をしたマイク・ディーン氏とその家族に対して殺害予告が届いたという。これを受けてディーン氏は、誤審後の次の試合の審判から自らを外してほしいとお願いをしている。こういうことは2度とあってはならない。金銭的な観点から審判の給料が上がることでモチベーションの増加に繋がりミスのないジャッジが増えればプレミアリーグはもっと面白くなるのではないかと思う。

## 第4章 プレミアリーグのどこにそれだけの魅力があるのか

### 第4章第1節 プレミアリーグを体現する熱狂的なファンの存在

自分は、2010年南アフリカワールドカップを見てサッカーにはまり、それから色々なリーグの試合を何百と見てきた。そんな中で、意見として他のリーグと比べてプレミアリーグはファールを取る基準が非常に甘く乱闘寸前だけどプレーを中断させずに続行させるというケースをよく見る。また、他のリーグはスローペースで足元のテクニックを使うことが多いがプレミアリーグはハイペースで試合が進んでいきタックルなどの気持ちを前面にだしたプレーをする選手が多い。また、そういう選手が好まれる傾向にある。選手がボールを持っていて背後に敵が来たにもかかわらず気づいていない時、自分たちとライバルチームに所属している過去を持つ選手がボールを持った時、シュートを打てそうなチャンスの時、もちろんゴールが決まった時など様々な瞬間に観客は声援を送る。それが味方を鼓舞する声援であろうが敵を野次するブーイングであろうが試合を盛り上げていることに変わりはない。どちらにせよその声量がスタジアム全体の一体感を産んでいてすごく魅力的である。本節で述べた自分の意見の信憑性をより高めるために、次節では実際の試合データをもとに分析していく。

### 第4章第2節 ホームアドバンテージ

SARS コロナウイルス-2(Severe Acute Respiratory Syndrome coronavirus2)の蔓延で観客がスタジアムに入れず無観客試合を行わなければならないシーズンもあった。すべてのチームがそうとは限らないがファンの声援なしでは戦力ダウンしてしまうチームも存在する。それがプレミアリーグに所属するリヴァプールだ。これを実際の結果をもとに説明していきたいと思う。プレミアリーグでは、2019/20シーズンは全チームが第28節から第38節までの11試合を無観客で実施する方式、2020/21シーズンは地区ごとの感染者数で判断され有観客か無観客か決められたためチームごとによって無観客で行われた試合の数は異なる方式がとられた過去2シーズンに渡って無観客試合が行われた。ホームアドバンテージという面で大きく影響が出た2020/21シーズンに注目して説明していく。リヴァプ

ールは、直近5シーズンのうち4シーズンでホームゲーム無敗という成績をおさめている。これがどれくらいすごいことなのかというと同じ5シーズンの間にリヴァプールを除く19チームで無敗を記録したチームは1チームもいません。つまり、5年間で100チームがプレミアリーグに所属し、ホーム無敗を4回記録した全てがリヴァプールということである。では、それだけホームに強いリヴァプールが負けを記録したシーズンについて話していく。その1シーズンとは、ちょうど無観客が行われた2020/21シーズンだった。結果を先に言うと、19試合中10勝3分6敗とホームゲームで6つの敗北を記録し、その6試合は連続で行われたものであった。ファンの中では、自分たちがスタジアムにいたらこんなことは絶対にさせなかったという人もおりここからサッカーチームにおいて応援してくれるファンの存在がどれほど大きかったかが分かる。特に、プレミアリーグにおいてはそれが他のどのリーグよりも重要だと感じプレミアリーグを盛り上げている魅力であると考ええる。

#### 第4章第3節 サッカー界を盛り上げるプレミアリーグの高騰移籍市場

近年、選手が他のチームに移籍する際に発生する移籍金というのは高騰している。中でも戦力、財政力ともに各国を代表するチームはビッグクラブ、メガクラブと呼ばれている。ただ、潤沢な資金を持つプレミアリーグのチームは、ビッグクラブに相当しなくとも高額な移籍の取引を成功させることができる。今回は、2022年の夏移籍市場と前シーズンである2020/21シーズンの結果をもとに、成績が振るわなかったが高額な移籍を成立させたチームを参考文献のGOALをもとに取り上げいかにプレミアリーグのチームに資金力があるのかということを説明していく。

1 チーム目は、2020/21シーズンのプレミアリーグで14位であったアストン・ヴィラである。このチームは、ジェゴ・カルロスを22年の夏に約42億6300万円という移籍金でスペインのセビージャから獲得してきた。注目すべきセビージャの順位であるが2020/21シーズンのスペインリーグであるリーガ・エスパニョーラで4位という成績を記録している。スペインとイングランドでは、ヨーロッパのコンペティションであるチャンピオンズリーグに4位のチームまで出場することができる。チャンピオンズリーグは、出場することが夢であるという選手もたくさんいるくらい偉大な大会でそれを蹴ってまでして移籍をするという事実から両クラブ間での金銭面の力関係がよくわかる。

2 チーム目は、2020/21シーズンプレミアリーグで11位であったニューカッスル・ユナイテッドである。このチームは、アレクサンデル・イサクを22年の夏に約97億円という移籍金でスペインのレアル・ソシエダから獲得してきた。移籍金は、22年の夏移籍の中で6番目に高い金額でありこれに11位の成績であるチームが関わっているというのは驚きの事実である。こちらレアル・ソシエダの2020/21シーズンリーガ・エスパニョーラでの順位が5位という成績であることから戦力に差があるチーム同士での移籍だとわかる。も

もちろん、プレミアリーグとリーガ・エスパニョーラで同じ順位のチームの強さが全く同じというわけではないので、あくまで順位は大まかな目安として捉えている。

表5 2020/21 シーズンプレミアリーグとリーガ・エスパニョーラの順位表

| 順位(11~15位) | プレミアリーグ         | 順位(1~5位) | リーガ・エスパニョーラ     |
|------------|-----------------|----------|-----------------|
| 11位        | <u>ニューカッスル</u>  | 1位       | アトレティコ          |
| 12位        | クリスタルパレス        | 2位       | レアル・マドリー        |
| 13位        | ブレントフォード        | 3位       | バルセロナ           |
| 14位        | <u>アストン・ヴィラ</u> | 4位       | <u>セビージャ</u>    |
| 15位        | サウサンプトン         | 5位       | <u>レアル・ソシエダ</u> |

出典：SOCCER24(LL21/22)(PL21/22)(PL22/23)をもとに筆者作成

## 第5章 結論

本研究では、プレミアリーグとお金の関係について第4章に分けて調べていった。お金は、プレミアリーグの様々な点において密接に関係しており結果を左右する大事な材料の1つであると理解できた。今回の研究で調べたことは、普段プレミアリーグを中心に海外サッカーを見ている私でも知らないことばかりでとても勉強になった。他のリーグと比較することで、プレミアリーグの金銭面での数字が規格外であることを認識してもらえたと思う。しかし、この現状がいつまで続くかは約束されたものではなく数年後には逆転しているかもしれない。だからこそサッカーは面白いのだ。

## 参考文献

- Alt はともだち(2021年11月28日)「【20-21】データで振り返るリバプールFCのシーズン - チーム編【プレミアリーグ】」<https://alt-is-friend.com/> 2023年1月22日閲覧
- AFPBB News(2021年2月10日)「殺害予告のプレミア主審、次節担当外に2戦連続で物議醸す退場」<https://www.afpbb.com/articles/-/3330981> 2023年12月15日閲覧
- 岡部恭英(2015年7月4日)「なぜプレミアとブンデスの放映料は3倍もの差がついたのか?」<https://newspicks.com/news/1060656/body> 2022年7月25日閲覧

ALLSTARSClub(2023年6月25日)「プレミアリーグ 23/24 シーズンの各クラブシーズンチケット料金が明らかに ; ALLSTARS CLUB」<https://www.all-stars.jp/news/23-24-pl-season-ticket-20230625003/> 2023年12月12日閲覧

FootyStats(更新年不明)「年俸 - プレミアリーグ (イングランド) | FootyStats」<https://footystats.org/jp/england/premier-league/salaries>、2024年1月9日参照(本文では「FootyStats(プレミア)」と称す)

FootyStats(更新年不明)「年俸 - フットボールリーグ・チャンピオンシップ (イングランド) | FootyStats」<https://footystats.org/jp/england/championship/salaries> 2024年1月10日参照(本文では「FootyStats(EFC)」と称す)

FootyStats(更新年不明)「年俸 - ブンデスリーガ (ドイツ) | FootyStats」<https://footystats.org/jp/germany/bundesliga/salaries> 2024年1月9日参照(本文では「FootyStats(ブンデス)」と称す)

GOAL(2022年9月3日)「【2022-2023】サッカー夏の移籍金ランキング | 1位は100億越え、最高額で加入した選手は? Goal.com 日本」<https://www.goal.com/jp/%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88/football-top-transfers-ranking/blt9cdfce5152f98a51#cs7d0c4cfa353eaaaa> 2023年1月23日閲覧

SOCCER24(更新年不明) ” Premier League 2021/2022 Standings & Team Forms | Soccer24.com” , <https://www.soccer24.com/england/premier-league-2021-2022/standings/#/6kJqdMr2/table/overall> 閲覧日 2023年1月23日(本文では「SOCCER24(PL21/22)」と称す)

SOCCER24(更新年不明) ” LaLiga 2020/2021 Standings & Team Forms | Soccer24.com” , <https://www.soccer24.com/spain/laliga-2020-2021/standings/#/I58n6IRP/table/overall> 閲覧日 2023年1月23日(本文では「SOCCER24(LL21/22)」と称す)

SOCCER24(更新年不明) ” Premier League 2022/2023 Standings & Team Forms | Soccer24.com” , <https://www.soccer24.com/england/premier-league-2022-2023/standings/#/nunhS7Vn/table/overall> 2023年12月15日閲覧(本文では「SOCCER24(PL22/23)」と称す)

Score and Change (2023年10月23日) “Overview of the 2023/2024 Premier League sponsors” <https://www.scoreandchange.com/overview-of-the-2023-2024-premier-league-sponsors/> 2023年12月9日閲覧

Statista(2023年9月19日) “Most expensive season tickets 2023 statista” <https://www.statista.com/statistics/328654/premier-league-teams-ranked-by-most-expensive-season-ticket-price/> 2023年12月9日閲覧

SPORTINGFREE(2021年5月9日)「プレミアリーグレフリーの給与 2023-22:基本給と最高所



得 者 』

<https://www.sportingfree.com/ja/%E3%83%95%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%9C%E3%83%BC%E3%83%AB/%E3%83%97%E3%83%AC%E3%83%9F%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B0%E3%81%AE%E5%AF%A9%E5%88%A4%E3%81%AE%E7%B5%A6%E6%96%99/> 2023年11月16日閲覧

ディアハト(2021年10月3日)「プレミアリーグ レフェリー名鑑」<https://die-acht.theletter.jp/posts/0f6bab40-2200-11ec-9789-6b6189ea86d0> 2023年11月26日閲覧

Transfermarkt(更新年不明)「プレミアリーグ 地図」

<https://www.transfermarkt.jp/premier-league/karte/wettbewerb/GB1> 2023年12月16日閲覧

Note(2023年7月20日)「プレミアリーグクラブの10年間(2013-2022)」

<https://note.com/tomoyakubo/n/n9dd9837c8372> 2023年12月16日閲覧

フットボールチャンネル(2020年11月24日)「プレミアリーグでも約9カ月ぶりの観客入場へ。ロックダウン明けから最大4000人」

<https://www.footballchannel.jp/2020/11/24/post399199/> 2023年1月22日閲覧

Weblio 辞書(更新年不明)「プレミアリーグの概況-わかりやすく解説」

[https://www.weblio.jp/wkpja/content/%E3%83%97%E3%83%AC%E3%83%9F%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B0\\_%E3%83%97%E3%83%AC%E3%83%9F%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B0%E3%81%AE%E6%A6%82%E8%A6%81](https://www.weblio.jp/wkpja/content/%E3%83%97%E3%83%AC%E3%83%9F%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B0_%E3%83%97%E3%83%AC%E3%83%9F%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B0%E3%81%AE%E6%A6%82%E8%A6%81)、2024年1月9日参照(本文では「Weblio 辞書(プレミアリーグ)と称す」)

YAHOO!ニュース(2023年7月4日)「冷気に向け新たに3クラブ…規制発表後も増えるキャンセル企業の胸サポナー」

<https://news.yahoo.co.jp/articles/9b2c8ee5348e8c4949d8e4846ae432df8409f594>

、2023年12月9日閲覧

YAHOO!ニュース(2023年7月16日)「プレミアの名物主審としても知られたマイク・ディーン氏が審判を退会…昨季はVARを担当」

<https://news.yahoo.co.jp/articles/55dae7f3d4da39fafbd4a38c7ce58f5c5cf5b53a>、

2023年11月26日閲覧